



みなみっ子

28号

令和8年6月17日(水)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標 自立 協働 創造

改めて国語の学習の大切さについて

小学校の国語教育は、すべての学習の基盤となる最も重要な教科の一つです。文部科学省の「小学校学習指導要領」において、国語がなぜそれほど大切にされているのか、その理由と近年の改訂ポイントを分かりやすく整理しました。

1 学習指導要領が示す「国語の大切さ」

国語は単に「日本語の読み書き」を学ぶだけの教科ではありません。学習指導要領では、国語を「全教科の学習の基盤」および「思考を支える道具」として位置づけています。具体的には、国語の役割を以下の3つの視点から大切にしています。

知的活動の基盤（考える力）：私たちは言葉を使って物事を考え、論理を組み立てます。国語力がなければ、算数の文章題を理解することも、理科や社会で仮説を立てて検証することもできません。

コミュニケーションの基盤（伝える力）：日常生活で人と関わり、互いの思いや考えを正確に伝え合い、理解し合うために不可欠な力です。

感性・情緒の基盤（豊かな心）：文学作品などを通して、言葉が持つ美しさやよさに気づき、想像力を膨らませて豊かな人間性を育みます。

2 国語科の目標（資質・能力の3つの柱）

現行の学習指導要領では、国語科の目標を「言葉による見方・考え方」を働かせながら、以下の3つの柱（資質・能力）に沿って育成することを目指しています。3つの柱具体的な目標（指導要領より）①知識及び技能日常生活に必要な国語の特質（語彙、漢字、我が国の言語文化など）を理解し、適切に使うことができるようにする。②思考力、判断力、表現力等日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。（話す・聞く、書く、読むの3領域）③学びに向かう力、人間性等言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3 近年の改訂で特に重視されているポイント

最近の指導要領の改訂では、時代の変化（情報化社会など）に対応するため、特に以下の点が強化されました。

「情報の扱い方」の新設：話や文章から必要な情報を取り出して整理したり、複数の情報（図表と文章など）を関連付けて捉えたりする「論理的思考力」の育成が重視されています。

語彙（ごい）指導の系統化：単に言葉の意味を知っているだけでなく、話や文章の中で実際に「使いこなせる語句の量を増やす（語彙の質を高める）」ために、学年ごとに重点を置く言葉のまとまりが明確に示されました。

「考えの形成」の重視：本を読んだり話を聞いたりした後に、ただ内容を理解するだけでなく「自分はどうか考えるか」という自分の意見を持つプロセスの指導が、すべての領域に位置づけられています。

まとめ：小学校の国語教育は、子どもたちが「言葉を使って社会や人とつながり、自ら考える力」を育むための土台です。学習指導要領は、言葉を通じた様々な活動（言語活動）を授業の中で充実させることで、生きて働く本物の国語力を身に付けることを求めています。

小学校国語教育：すべての学びを支える「言葉の力」

国語は「全教科の学習の基盤」であり、思考・伝達・感性の全ての土台となる最重要教科です。
現行の学習指導要領では、3つの資質・能力の育成を柱とし、現代社会に対応した情報の扱い方や論理的思考力の強化が重点的に取り組まれています。

論理的思考と「情報の扱い方」
複数の情報を関連付けて捉え、自分の考えを形成する力を重視します。

育成すべき資質・能力と改訂の重点

漢字
知識及び技能
語彙、漢字、言語文化を理解し適切に使う

思考力、判断力、表現力等
伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う

学びに向かう力、人間性等
言葉のよさを認識し、国語を尊重する態度を養う

語彙
語彙（ごい）指導の系統化
実際に使いこなせる語句を増やすため、学年ごとの指導を明確化しています。

コミュニケーションの基盤（伝える力）
他者と正確に思いを伝え合い、相互理解を深めるために不可欠です。

知的活動の基盤（考える力）
算数や理科など、全教科の論理的思考を支える道具となります。

感性・情緒の基盤（豊かな心）
文学等を通じて言葉の美しさを感じ、豊かな人間性を育みます。